

日医ニュース

2026.11 5 No. 1561

発行所

日本医師会
Japan Medical Association〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 松本会長 古川デジタル大臣と意見交換… 3面
- 防災推進国民大会(ぼうさいくたい) 2026 日本医師会セッション… 4面
- ヘルー、ブラジルでの国際医療活動報告… 7面

日本医師会
ドクターバンク

提携先の都道府県ドクターバンク



都道府県医師会や、行政の提携先ドクターバンクとも密接に連携！
全国規模でのマッチングが可能です！

「日本医師会ドクターバンク」に名称変更を行いました。従来から、女性医師のみを対象としていたわけではなく、男性医師も対象としていたことが、名称変更に伴い、性別・年齢を問わず、全ての医師を対象とする事業であることが明確になりました。多くの医師が登録していただき、登録者数も増加しました。

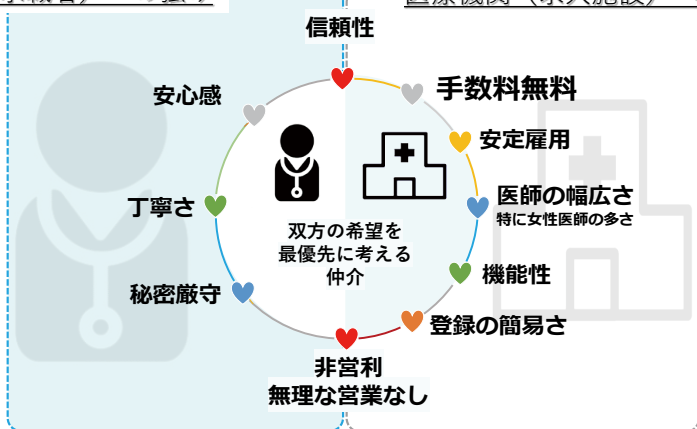
また、令和8年10月にはドクターバンク事業を運営しているドクターサポートセンターの組織体制の見直しを行い、事業推進に当たって設置している二つの委員会の関係性を明確化しました。これにより、事業を一体的かつ円滑に推進する体制が強化され、就業成立数の更なる増加につながるものと考えています。

当ドクターバンクは、医師(求職者)と、医療機関(求人施設)の双方が共に利用いただけます。また、「医師偏在」の是正に向け、全国規模で医師と医師不足地域の医療機関をつなぐ取り組みとして、これまで女性医師のキャリア支援などで培ってきた相談・コーディネート機能を充実させ、全国の医師会や行政とのネットワークを活用した事業も展開しています。

◆日本医師会ドクターバンクの強み

医師(求職者)への強み

医療機関(求人施設)への強み



当ドクターバンクでは、専任コーディネーターによる医師一人ひとりに応じた、きめ細かなサポートを心掛けており、専任コーディネーターが求職者の希望する勤務地や勤務時間、診療科などを確認し、ライフステージやキャリアプランに応じた求人をご紹介します。また、時短勤務や当直無し、休職後の復職などにも対応しており、単に求人を紹介するだけではなく、求職者一人ひとりに寄り添い、医師が無理なく働き続けられる環境を考えています。

専任コーディネーターによるサポート

参考までに、令和2年に実施した当ドクターバンク登録者へのアンケート調査をご紹介します。ドクターバンクの利用者に感想を伺ったところ、「非常に良い」22.8%、「良い」39.2%、「普通」35.5%となりました。

「非常に良い」と「良い」と回答した方の合計が6割を超え、多くの利用者から肯定的な評価を頂いております。

は、(1) コーディネーターの対応が良い、(2) 紹介手数料が掛からない — となっています。また、民間職業紹介事業所ではあまり掲載の無い求人もあるというご意見もいただいております。このように、当ドクターバンクは単に「無料で利用できる求人サービス」というだけではなく、専任コーディネーターによる丁寧なコーディネートや、多様な働き方への対応等を行っている点も大きな強みと言えます。

(2面に続く)

全国と地域をつなぐ

日本医師会ドクターバンクの活用を

日本医師会ドクターバンクに名称が変更されてから1年が経過したことを受けて、今号では改めて、他には無い当ドクターバンクの強みなどを紹介します。

「日本医師会ドクターバンク」に名称変更を行いました。従来から、女性医師のみの対象としていたわけではなく、男性医師も対象としていたことが、名称変更に伴い、性別・年齢を問わず、全ての医師を対象とする事業であることが明確になりました。多くの医師が登録していただき、登録者数も増加しました。

現在の登録状況ですが、特に注目されるのが、新規の求職者数の増加です。昨年11月の名称変更による効果が登録状況にも表れており、令和6年11月時点で30名(女性28名、男性2名)であったものが、令和7年11月時点では132名(女性28名、男性104名)に大きく増加しています。

令和8年8月現在で、就業・マッチング成立状況は、令和7年度の実績で235件、平成18年度からの累計では、3908件となっています。

ドクターバンクの強み

当ドクターバンクの最大の強みは、日本医師会が運営しているという点で、登録から成立まで無料で利用できることです。安心して利用できる仕組みを整えています。

高額な紹介手数料が必要な有料職業紹介事業所の利用をためらう医療機関や、手数料を掛けることができない施設などでも、医師確保の選択肢を広げることができます。

日本医師会ドクターバンク

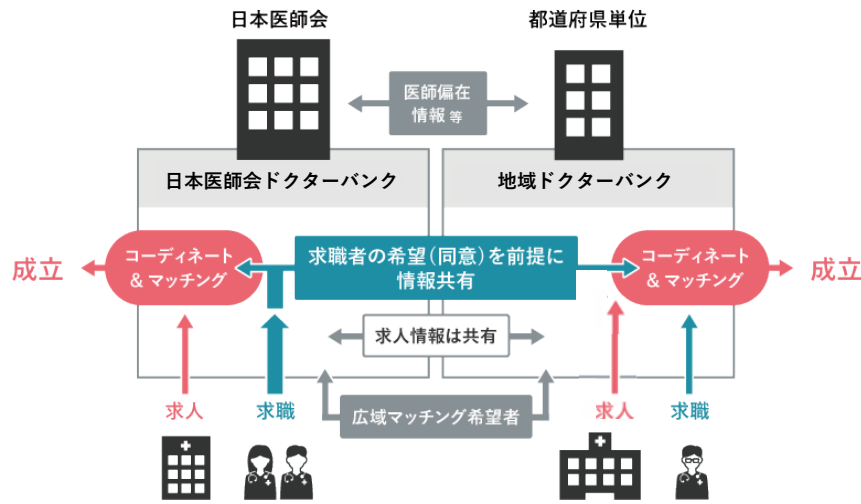
スマートフォン、タブレット、PCからも簡単にご登録いただけます。

☎ 03-3942-6512

(平日10:00~17:00)



図1 地域のドクターバンクとの業務提携を進め、
全国ネットワークの構築をとともに目指す



日本医師会ドクターバンクと地域ドクターバンクの連携により、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。また、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。

また、オファーステージ機能により、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。また、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。

（1面より）
地域のドクターバンクとの連携
当ドクターバンクでは、都道府県医師会や行政との連携の下、地域のドクターバンクとの求人情報等の共有を図り、地域の枠を越えた全国規模での医師のマッチング機能の強化に取り組んでいます（図1参照）。
こうした取り組みは、個々の医療機関と求職者を結び付けるだけでなく、地域における医師確保の状況や医療機関のニーズを踏まえ、医師不足地域における人材確保や医師偏在の是正につなげることを目指すものです。

特に、都道府県医師会や行政、地域のドクターバンクとの連携を通じて、地域医療の確保という公益的な観点から医師のマッチングを推進できる点は、民間の有料職業紹介事業所とは異なる、当ドクターバンクの大きな特徴と言えます。
今後も、地域のドクターバンクとの連携を一層深めていく中で、医師と医療機関とのより効果的なマッチングを推進するとともに、地域医療を支える医師の確保と医師偏在の是正に貢献していきたいと考えています。

また、オファーステージ機能により、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。また、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。

また、オファーステージ機能により、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。また、求職者の希望（同意）を前提に情報共有が行われ、求人情報は共有されます。広域マッチング希望者が求職者として登録できます。

医師をお探しの皆様へ

- POINT! 求人登録から成立、医師へのオファー、成功報酬も全て無料
- POINT! 老若男女を問わず、多様な医師が登録
- POINT! 求人登録はWEBで完結、契約書類の提出は一切不要
- POINT! 学会出席時などの代替医師（スポット勤務）紹介も可能

当ドクターバンクは病院のみならず、診療所や介護施設等、医師の求人であれば幅広くご利用いただくことができ、常勤・非常勤の他、学会出席時等のスポット勤務など、それぞれのご事情やご希望に応じて、求人施設と求職者双方の希望を踏まえたマッチングを支援しています。

また、既述のオファーステージ機能を通じて、求人内容を求職者側に直接送信することも可能です。

さらに、医療機関のホームページ等で求人情報を発信するだけでは、接点を持ちにくい医師にもアプローチが可能であり、全国規模のネットワークや地域のドクターバンク等との連携を生かし、採用の可能性を広げることができます。

医師の皆様へ

- POINT! 年齢、性別、医師会会員・非会員を問わず、全ての医師が登録可能
- POINT! 都道府県医師会・行政のドクターバンクとの連携により全国的にマッチングが可能
- POINT! 希望条件や不安等を丁寧に聞き取り、求職者の意思を最大限尊重したご案内
- POINT! 医師の皆様はもちろん、就業先にも金銭的負担を掛けません

医師として働くことと、自分自身の人生を大切にすること。その二つは、決してどちらか一方を諦めなければならないものではありません。

だからこそ、私たちは「一般的な働き方」に皆様を合わせるのではなく、皆様の生活や希望に合った働き方をご一緒に考えてまいります。

当ドクターバンクは、単に求人施設を紹介するだけの場所ではありません。医師の人生の転機に寄り添い、その時々のご生活に合ったキャリアを考えるための相談窓口でもあります。

一つ一つの課題に丁寧に向き合い、私たちは相談からマッチング・就業まで、求職者の皆様、求人施設の皆様一人ひとりに寄り添った支援を進めてまいります。

医師をお探しの医療機関並びにお仕事をお探しの医師の皆様はぜひ、日本医師会ドクターバンクのご活用をお願いいたします!!

日本医師会ドクターサポートセンター

- ドクターサポートセンターのホームページでは
 - 都道府県ごとのドクターバンク
 - 地域での活用できる補助金・支援状況等の一覧
 - ライフステージに応じたサポート制度や就職についての体験談など、医師の就業支援に関する情報も発信中です。
- 医師が知っておきたい知識がまとめられた『医師の多様な働き方を支えるハンドブック』など合わせてご覧ください。

『医師の多様な働き方を支えるハンドブック』
https://jmadsc.med.or.jp/

お知らせ

松本会長

古川デジタル大臣と医療DXの推進等で意見交換



松本吉郎会長は10月15日、デジタル庁を訪問し、古川俊治デジタル大臣に大臣就任への祝意を伝えるとともに、医療DXを巡る課題について意見交換を行った。

ドレーが提供する「**②
③（アットリンク）**」などへの不正アクセスが起きたことを受けて、医療機関のサイバーセキュリティ対策が話題となり、侵入を完全に防ぐことが難しい中、攻撃を受けることを前提とした備えが必要との考えで一

専門人材の確保については、厳しい経営状況にある医療機関にとって大きな負担となる」として、国からの支援を求めた。

さらに電子カルテや医療情報共有の仕組みについては、使いやすさや導入・運用コストを含めて意見を交わした。その中

で古川デジタル大臣は、電子カルテの普及自体を目的とするのではなく、必要な情報を適切に共有し、患者にとって有益な医療につなげることが重要であると指摘。「標準仕様の電子カルテなどを

その他、会談では、医療機関の老朽化や建て替え費用の上昇、病床稼働率の低下などにも話が及び、病院の再編に当たっては、公立・公的病院の役割や地域の医療需要を見極めた上で、施設整備

通じて、必要な情報を開覧できる環境を整え、導入費用を把握するモデル事業にも取り組んでいきたい」とした。

また、会談の最後には松本会長が医療現場の負

また、会談の最後には松本会長が医療現場の負担軽減と、国民・患者に安全・安心で質の高い医療を提供する医療DXの実現に向け、日本医師会として引き続き協力する考えを伝え、両者が協力して医療DXを推進することを確認した。

り組みについて学ぶ講義も始めました。女性医師部会による男女共同参画とキャリア形成をテーマとした講義も10年を超えて実施しています。さらに、研修医歓迎レセプションや県医学会への医学生参加支援など、学生時代から研修医の時期まで切れ目なく支える取り組みを続けています。

てからも大切に著続けた「一着」との声が寄せられました。

私自身も学生へ、育児との両立に悩み医師を辞めようと思った時、先輩から「多くの患者さんが、その身体をもつてあなたを育ててくださったことを忘れてはいけない」と教えられた経験話を話しました。

また、女性医師部会や勤務医部会を紹介し、働き方やキャリアに悩んだ時、医師会には相談できる仲間がいることも伝えました。

白衣贈呈は、医師会と医学生が直接顔を合わせ、思いを伝える貴重な機会となっています。学

生時代から顔の見える関係を築くことが、地域医療や医師会を身近に感じてもらうきっかけになることを期待しています。

沖縄県医師会は、これからも琉球大学と手を携え、「沖縄で学び、沖縄で育ち、沖縄の医療を支える医師」を地域全体で育てていきたいと考えています。沖縄には、人と人がつながり、互いに助け合い、支え合う「ゆいまーる」の文化があります。この精神のように、学生、大学、医師会、地域が互いに支え合いながら未来の医師を育む。そのような文化が全国へ広がることを願っています。

す。

都道府県医師会だより



未来の医師を育む「ゆいまーる」
— 沖縄県医師会の

医学生支援と白衣贈呈

沖縄県医師会常任理事

涌波淳子

沖縄県医師会では、令和6年度より琉球大学医学部医学科4年生を対象に、臨床実習（クリニカ



医学生に白衣を贈呈する田名沖縄県医学会長（左から2人目）

クシッパの開始に合
わせて白衣
を贈呈して
います。医
師会が主体
となって医
学生へ白衣
を贈る取り
組みは全国
的にも珍し
いと聞いて
おります。

なつてから入会する組織
ではなく、医師を志した
時から寄り添う存在であ
りたい」との思いで、医
学生や研修医への支援に
力を入れてきました。

琉球大学医学部4年生
を対象とした「医師会の
社会における役割」の講
義を平成24年度から10年
以上継続し、昨年度から
は5年生を対象に冲縄の
医療課題や県医師会の取

令和7年11月の2回目の贈呈式では116名に白衣を贈呈しました。大学からは、県医師会からの白衣贈呈は珍しく、地域から期待されているという自覚につながるという言葉を頂きました。学生からも「医療現場へ踏み出す象徴として身を引き締まる」「研修医になっ

る支持
こ

令和8年熊本地震の 被災医療機関等に対する

令和8年熊本地震の
被災医療機関等に対する支援金の
ご協力に関する御礼

日本医師会では「令和8年熊本地震」で被災した医療機関並びに地元医師会を支援するため、全国の医師会及び会員の先生方に対して支援金へのご協力をお願いしていましたが、10月20日現在で2億4,645万1,451円（台湾医師会からの支援金1,693万8,924円を含む）もの支援金をお寄せいただきました。ご協力いただきました全ての皆様の篤志に深く感謝申し上げます。



防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2026 日本医師会セッション

「地域医療情報連携ネットワーク

～災害医療における活用について～」をテーマに開催

「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2026」が10月17、18の両日、鳥取県で開催され、17日には「日本医師会セッション」が行われた（事前収録動画）。

同大会は国民の防災に関する意識向上を目的として、防災推進国民会議の他、防災推進協議会、内閣府の主催により行われているイベントである。様々な省庁、地方自治体等の公的機関、団体、

企業、非営利法人が出展、セッションを行っており、今回で11回目となるが、日本医師会は毎回出展を行っている。

平時からの体制整備が重要―松本会長

「地域医療情報連携ネットワーク」災害医療における活用について」をテーマとして行われた日本医師会セッションは、藤原慶正常任理事の司会で開会。冒頭あいさ

つした松本吉郎会長は、今回のテーマを選んだ理由について、「災害時においても、地域の皆様に必要な医療を継続して提供していくためには、医療機関や薬局、その他関係者が平時から連携し、必要な情報を共有できる体制を整えておくことが重要と考えたためである」と説明。その上で、本日のセッションが平時から構築してきた地域の医療連携を災害時どの

ように生かしていくのか、多くの示唆を与えるものになることに期待感を示した。

引き続き四つの講演が行われた。

長嶺由衣子厚生労働省政策統括官付医療情報連携担当参事官室長は、全国医療情報プラットフォーム（以下、全国PF）の概要を説明する中で、オンライン資格確認の災害時モードについて、令和6年能登半島地震の際に3万件を超える利用があり、大変役立つとの声が寄せられていることなどを紹介。「全国PFの最大のメリットは、標準化された情報が共有されているため、被災により保険証やお薬手帳を紛失した場合でも、医療機関などが医療情報を確認できることにある」と強調した。

また、災害時に通信や電源が落ちてしまった場合、全国PFは使えなくなるのではないかと懸念に対しては「被災地で使用できなくなったとしても、情報共有できる体制が整ってさえいれば、広域搬送を受け入れた医療機関で利用することはできる」と説明。災害時には全国PFに加えて、既存の災害医療体制やバックアップの手段を組み合わせて使用することが大事になるとした。

その上で、今後については、今冬から全国展開を始める電子カルテ情報共有サービスなどを利用しながら、平時にも災害時にも医療を安心して受けることができる体制整備に努めていくとの考えを示し、理解と協力を求めた。

渡部愛日本医師会総合政策研究機構主任研究員は、地域医療情報連携ネットワーク（以下、地連NW）のメリットについて、患者側には「初診時でも迅速で適切な治療が可能になる」「重複検査が防止できる」などが、利用する施設側には「患者の問診時間が短くなる」「紹介・逆紹介時の事務負担が軽減される」などがそれぞれあると強調。2025年時点では全国に276のネットワークが存在し、病院3500施設、診療所約1万3000施設で画像情報や診療情報の連携等に使われているが、現在は国からの補助金の減少などの問題もあり、その数は横ばいの状況にあるとした。

また、地連NWは災害時にも活用が可能であり、その好事例として「秋田・山形つばさネット」をコロナ禍において利用し、適切な治療が行われたことを紹介した。

二つの講演を踏まえて指定発言を行った長島公之常任理事は、「全国PFは全国に張り巡らされた細い管であるのに対して、地連NWは地域限定の太い管である」と指摘。「それぞれに得意なところと不得意なところがあるが、この二つを地域の事情や課題に合わせて上手に組み合わせることが、平時ばかりでなく、災害時にも重要になる」とした。

その一方で、今後の課題については「参加機関数の停滞」「運用・維持費用が高額」といったことがあると指摘。「その解決のためにも県行政や県民の理解を深めることが不可欠になっている」と述べた。

横山邦彦白山石川医療企業団副会長は、石川県全域をカバーしている「いしかわネット」について、「コロナ禍での経験を踏まえ、広域避難者が多かった令和6年能登半島地震においてもスムーズに活用することができた」とする一方で、透析情報の確認ができなかった点が課題であったと指摘。その解決策として、今年7月からはスマートフォンアプリを使って、患者自身に情報を携行してもらう取り組みを始めたことを紹介。さら

に、今年4月からは登録した患者情報を救急隊も閲覧可能としていることなども報告した。

その上で、「これらの情報基盤を有事でも活用するためにも、有事に使用するシステムは平時に使い慣れたシステムでなければならぬ」と強調。そのため、平時から基盤を整えておくことが重要になるとした。

昨今企業を狙ったサイバー攻撃が多発していますが、医療機関にもその被害が散見されています。

日本医師会ではサイバーセキュリティ支援制度を創設し、A①会員の先生方を対象とした無料の相談窓口を設置するなど、様々な支援を行っています。

制度の詳細は下記の日本医師会ホームページ並びにメンバーズルームをご覧ください。



ご活用
ください！

日本医師会
サイバーセキュリティ支援制度

<https://www.med.or.jp/doctor/sys/cybersecurity/001566.html>

お知らせ

「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）2026 日本医師会セッション」を収録した動画は同大会のホームページの他、日本医師会公式YouTubeチャンネルにも掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



防災推進国民大会 2026
公式ホームページ



日本医師会
公式YouTubeチャンネル

災害時でも必要な医療が提供できるよう努める―茂松副会長

最後に総括並びに閉会のあいさつを行った茂松茂人副会長は、日本医師会としても本日の内容を災害医療対策や医療DXの取り組みに生かし、災害時にも国民に切れ目なく必要な医療を提供できるよう、引き続き努めていくとした。

南から北から

佐賀県
医界佐賀
第1233号より

海の上の医務室
— 銀河丸船医としての一カ月 —

日高 重和



若い頃、私は船医として遠洋航海に同行するという、今思い返しても得難い経験をした。今回は、その時の航海報告と当時の日記を基に記憶をたどってみたい。

長崎大学第一外科医局に所属していた平成12年11月からの約1カ月間、私は当時の運輸省航海訓練所の練習船「銀河丸（二世）」の船医として任命され、神戸港からホノルルを経て東京へ至る遠洋航海に参加した。この航海は、海員学校の実習生149名と乗組員・士官ら66名、総勢215名による船員養成のための実習航海であった。船内には医務室があるが、現在のような検査機器があるわけではなく、可能な医療は応急処置、小手術、投薬、点滴などに限られていた。医療体制は船医と看護長の2名であり、重症例が発生した場合には、陸上搬送の要否を判断することも船医の重要な役割であった。

神戸港を出た直後の海はまだ穏やかで、私にも余裕があった。しかし翌

ても食べられない程であった。夜間は当直担当者以外、各自ゆっくりと過ごしていた。部署ごとに焼肉やお好み焼きなどの催しがあり、船医である私も招待していただき、楽しい時間を過ごした。

当時の銀河丸には、現在のようなネット環境はもちろん無い。外洋に出ると携帯電話もテレビ放送も届かない。港に近付くまでは、社会の情報から完全に切り離されたような状態であった。ただし、船内には遠洋船舶向けの短波で配信される「FAX新聞」があった。私たちはそれを読んで、外の世界の出来事を知ることができた。後にこのFAX配信も終了し、衛星通信のメール配信へ一本化されたと聞いた。時代の変化を感じずにはいられない。

実習生たちは、当直業務を交代で行いながら、様々な実習に取り組んでいた。私も士官の案内で、その一部を見学させていただいた。特に印象的だったのは救助訓練である。落水者に見立てたブイを海上に投下し視認する訓練、そしてウィリアムソンターンと呼ばれる救助操船法を用いて、投下したブイの近くへ船を

正確に戻す操船技術は見事であった。その他にも天測実習や、ブラックアウトを想定した実習など、内容は実に多彩であった。

船医としては、実習生に対して船舶医療に関する講義を行い、定期試験での評価も担当した。船の上では、医療もまた実習の一部であり、安全な航海を支える大切な要素であることを実感した。

航海中には、楽しい行事も多く用意されていた。日付変更線の通過時には、船長の合図で実習生たちが見守る中、制服に身を包んだ船医の私が汽笛を鳴らした。くす玉が割られ、ブリッジは一気にお祭り騒ぎとなった。海の上で日付が変わるという特別な瞬間を皆で盛大に祝ったのである。

船上運動会も開催された。例年、仮装した船医と実習生がそれぞれ聖火点火と選手宣誓を行うことになっていたようで、私の仮装衣装も実習生たちによって既に準備されていた。笑いに包まれながら始まった運動会は、船上ならではの独特の盛り上がりを見せた。中でも印象深かったのは綱引きである。私も参加したが、単に力が強ければ勝るといえるものではなく、甲板は波のうねりで傾く。その傾きのタイミングをいかに味方に付けるかが勝敗を左右す

る。力とタイミング、船の揺れを読む感覚が必要で、陸上の綱引きとは全く違う面白さがあった。

ホノルル港に入港した際には、幸い大きな医療対応で呼び戻されることもなく、現地でのレセプションに参加し、ホノルル観光も楽しむことができた。久しぶりに陸上を歩く感覚は新鮮で、改めて地面が揺れないことのかし帰路に出航し、再び外洋に出ると、強風と高波に見舞われた。実習生の船酔い、打撲などでの受診は再び増加した。

帰路では釣り大会も行われた。南鳥島を2周する間、船尾から実習生と乗組員がトロリングクラインを流し、釣果を競うのである。残念ながらマグロではなかったが、1メートル超えのサワラなど9匹が釣れた。その夜は、解凍ではない新鮮な刺身を味わいながら皆で酒を楽しんだ。遠洋航海ならではのぜいたくなひとときであった。

この遠洋航海期間中、医務室を受診した患者数は延べ394名であった。多くは打撲、擦過傷などの外科系疾患と、上気道炎、船酔い、腹痛などの内科系疾患であった。幸い、緊急搬送や船内での手術を要する事態はなかった。

一方で過去の別の遠洋航海では、虫垂炎患者が発生し、近隣国の医療水準が不明であったため、やむなく船内で手術を行った先輩医師がいたという。その時に乗船していた士官が今回の銀河丸にも乗っておられ、当時の苦勞を聞くことができた。吸引器が無かったため、掃除機にバケツで手作りするトラップ容器で対応し、その士官自身が術野展開のかぎ引き助手を務めたという話であった。

その話を聞き、船医に求められるものの重さを改めて感じた。洋上では、外傷への即時対応、急性腹症の判断、限られた器具での緊急処置など、陸上とは異なる判断力と実行力が求められる。必要であれば、限られた環境の中で最善の医療を行わなければならない。乗組員にとって、「いざという時にメスを握れる医師が船内にいる」という事実は、大きな安心感であったに違いない。私自身も、外科医としての訓練が、この特殊な環境で大きな意味を持つことを実感した。

識させてくれる貴重な機会であった。

神戸からホノルルへ、そして東京へ。あの1カ月の航海は、今も私の医師人生の中で、ひととき鮮やかな記憶として残っている。

岩手県
いわて医報
NO.903より

いいわけ

石黒 保直



あなたが住んでいる土地に客人が来て（もしくは来る予定が）あって、飲食店のことを聞いてきたとする。「店名の（メニュー）っておいしんでしょ？」などと聞かれた時に、どう答えているだろうか。そういう質問への回答を小耳に挟む機会が何度かあった。それぞれ別の店ではあり、たまたまかもしれないが、好ましい答えではなく、「いやー、こは値段が高いから」とか「薄味でおいしくなくて」などであった。

聞いてきている方は、少なくともそのお店について好意をもっている。そのお店に行ってみたいから、実際はどうなのか、その土地に住んでいるあなたに確認したいのである。値段が高いかどうかは提供されたものが自分の価値観に合うかどうかもある。薄味に感じているのは、まさに本人の味覚によるものである。聞かれたお店が実はそこまで良いお店でないこともあってもいい。しかし、聞いてきた人の気持ちを考えて、お店そのものを考える。

「この辺りには何にも無いから……」もよく聞く言葉ではあるが、何も無い土地はないと、多くの転勤を経験してきた実感している。少なくとも地元愛（住んでしまえば地元扱い）とその土地への興味をもって、生活していくことが基本である。だから、そういうお店を知りたい客人には自信をもってお店を薦められるように、日々飲み歩いて情報収集しているところである。

案内

令和8年度医療事故調査制度
「管理者・実務者セミナー」

◆主催：日本医師会（令和8年度 日本医療安全調査機構 委託事業）
◆開催形式及び日程等…
※①または②どちらかを
選択し、受講願います。
①会場受講＋e-learning
受講
日時：12月13日（日）午
後0時30分～6時
場所：日本医師会館小講
堂
※「医療安全の基本的知
識」に関する一部の動画
については、12月3日
（木）にサイトに掲載す
る予定です。会場受
講前にご視聴ください。

②e-learningによる受講
期間：令和9年1月8日
（金）～3月26日（金）予定
※「医療安全の基本的知
識」に関する一部の動画
については、12月3日
（木）から先行して掲載
予定です。
◆募集期間…
①会場受講＋e-learning
受講（定員になり次第締
め切り）
10月29日（木）～12月8
日（火）
②e-learningによる受講
10月29日（木）～令和9
年3月19日（金）
◆対象者：医療機関の管
理者、医療事故調査の実
務者もこの機会に準備
する方（医療関係の資格の
有無、日本医師会会員・
非会員を問いません）
◆定員…
①会場受講＋e-learning
受講：100名程度（定
員になり次第締め切り）
②e-learningによる受
講：1000名程度
◆プログラム：「医療事
故調査制度」の概要「医
療事故報告における判
断」等の講義を開講予定。
詳細は下記ホームページ
よりご覧ください。
◆受講料：1500円
（税込）※①会場受講
＋e-learning受講、②
e-learning受講
◆申し込みは
こちらから
e-learningによる受講
共に同額
◆受講証明：全ての講義
を受講完了した受講者に
対し、「受講証明書」を
発行
◆申込方法：日本医師会
ホームページ「医療安
全・死因究明」のコーナ
ーより受付（<https://www.med.or.jp/doctor/arzen.sinn/>）

JMA JOURNAL ResearchGateに『JMA Journal』のページを開設！

『JMA Journal』の掲載論文を国内外の研究者により広く届けるため、この度ResearchGateに『JMA Journal』の専用ページを開設しました。

ResearchGateは世界中の研究者が利用する学術SNSです。論文ごとの閲覧数や引用数を確認できる他、著者と読者の交流など、様々な機能をご利用いただけます。

『JMA Journal』をぜひ、ResearchGateでもご覧ください。



<https://www.researchgate.net/journal/JMA-Journal-2433-3298>

『JMA Journal』は、日本医師会と日本医学会が発行する英文の総合医学ジャーナルです。PubMed Central (PMC) 収載のオープンアクセス誌で、2025年のジャーナル・インパクトファクターは2.0です。ぜひ、研究や診療にお役立ていただくとともに、関連する研究の際には、引用文献としてご活用ください。

最新情報はこちら ▶ <https://www.jmaj.jp>

論文投稿はこちら ▶ <https://mc.manuscriptcentral.com/jmaj>

問い合わせ先：JMA Journal Support Office ▶ admin@jmaj.jp

日本医師会国際課 JMAジャーナル編集室 ▶ jmaintl@po.med.or.jp

健康
ぷらざ

健康に暮らすための
ちょっとしたヒントを
集めました。



ホームページでは、600本を超える
「健康ぷらざ」のバックナンバーが
無料でご覧いただけます。



アクセスはこちらから！

<https://www.med.or.jp/people/plaza/>





アマゾン川巡回診療船にて

特別寄稿

ペルー、ブラジルでの 国際医療活動報告

慶應義塾大学国際医学研究会 渡部龍翔、布川淑恵、和氣涼翔

今号では慶應義塾大学の国際医学研究会に所属する3名の医学生にこの夏、訪問したペルー、ブラジルでの活動内容やその経験を通じて感じたことなどを紹介してもらった。

団体の歴史及び理念
国際医学研究会
〔International Medical Association: IMA (通称アイマ)〕は、慶應義塾大学医学部の公認団体です。1978年より約50年間、医学部教員1名と医学部6年生3名が派遣団を結成し、夏休み

に南米を中心とした世界各地で国際医療活動を行っています。そのために、渡航を実現させるためには、学生3名で本気で向かい合い、協力し合ねばならず、準備段階を通じて多くのご支援を頂いていただけたというの

が、IMAの活動の魅力の一つであると確信しております。我々は第49次派遣団として、2026年7月4日〜8月28日までの計56日間、ペルー、ブラジルの2カ国にて活動を行いました。

メンバープロフィール
学生責任者：渡部龍翔（駒場東邦高校出身）
会計：布川淑恵（豊島岡女子学園高等学校出身）
渉外：和氣涼翔（慶應義塾高等学校出身）
渡航内容紹介
7/6〜9：リマ（ペルー）
●北：南米最古の大学である、国立サンマルコス大学病院にて内科病棟・外科病棟 実習・見学
●日秘総合診療所 訪問・見学
（ペルーの保険システムや、医師の働き方についてご講義いただいた）
●サンマルコス大学眼科 学教授 Dr. Luis の Private Eye Hospital 訪問・見学
●カジェタノ・エレディア大学 熱帯医療研究所 訪問・見学
（日本には同じ病気を患う方が少ない熱帯病の患者さんを診察させていただいた）
7/10、11：タラボト（ペルー）
●Centro Takinesi の訪問
（精神科領域のホットトピックである、サイケデリックスを用いた治療を30年以上行っているリハビリセンターである）
7/18〜24：パリンチン（ブラジル）
●アマゾン川巡回診療船の2カ国にて活動を行いました。

メンバークレジット
●ヤノマミ族の方々から利用する医療施設 CASA I (Casa de Apoio a Saude do Indio) の訪問
●コーディネーターをしてくださった医師の Agostinho 先生のお勧め先のロライマ総合病院 (Hospital Geral de Roraima) とサンタ・テレザ大学の医学部を訪問・見学
7/31〜8/1：ブラジリア（ブラジル）
●ホストファミリーの肥田家の三男、『Gaspar』さんが院長として運営している『Eze Hospital』の見学
●ブラジル 国立国軍病院 訪問・見学
●国会議事堂 訪問
8/5、6：サンパウロ（ブラジル）
●日伯医学生会議（サンパウロ大学 USP）
（ポルトガル語を用いて、日本の学生及びブラジルの学生で学術的なテーマについてプレゼンを行う）
●団長の田中謙二先生講演会
●ポロイスカウト団体訪問
●アインシュタイン病院訪問
8/7〜10：ポルトアレ

グレイ（ブラジル）
●森口医師による巡回診療活動への参加
●リオグランデ・ド・スル州立大学病院 見学並びに診療現場へ参加
8/11〜15：ボツカツ（ブラジル）
●日伯医学生会議（パウリスタ州立大学（UNESP））
8/19〜26：シダー・国立公園（ブラジル）
●遠隔医療システムの見学
●ブラジル先住民の生活の観察
（より詳しい内容につきましてはIMAホームページに掲載のブログをぜひ、ご参照ください）

今回の経験を踏まえて感じたこと
最後に今回の活動での一番の学びや気づき、活動が終わった今考える「医の原点」、今後それをどう生かし、どう深めていくかについて紹介させていただきます。
●活動での一番の学びや気づき
■想像力は働かせようとして続けなければ、すぐに止まってしまうということ。
目の前で起きていて、そこにある物を見て、何となく理解した気になっていないだろうか。
自分が相手だととして、1日単位で考えたら、1カ月単位で考えたら、どのような生活をしていて、そこに対して自分は何ができるだろうか。考え続けなければいけないし、考え続けたいと思った（渡部）。

良い意味で「何もできない、することがない」2カ月であり、幼少期のOの業務もされるほどパワフルな方であり、その原動力は「全ては患者さんのため」とおっしゃっていた。
これから、学生から社会人へと立場が変わり、環境も大きく変わることと思う。向上心を持つことは大切ではあるが、それだけで自分を追い込みすぎることがないように、心に常に余裕を持っていたと思った。
そして、その余裕がペルー・ブラジルで見た人たちの明るさ、優しさにつながると思う。南米人の朗らかさを目指して、これからも邁進していきたい（和氣）。

活動が終わった今考える「医の原点」、今後それをどう生かすか、どう持っていくか
IMAで今回出会った方々とそこから得た経験・学びを基に、医師としての自分らしい情熱を大切に、どんな状況でもこれからの出会う方々を想い、最善の医療をしていきたい（布川）。

先生は生き様と心構えを感じ、できる限りのことをするその真意を実践できるよう、今後精進したい（布川）。

東京での忙しい日々でいかに自分が自分自身を追い込んでいたのか、追い込まれていたのかを理解できた。
ブラジルは物理的に日本から離れており、また精神的にも「渡航中は渡航に集中しよう」という気持ちであったため「あれをしよう、これをしよう」と思い立つことはなかった。

私にとっての医の原点とは、他者の役に立ちたいと思う気持ちだ。IMAの旅を通じて出会った医療者は、様々な異なる環境で医療を提供しており、裕福な方もそうでない方ももちろんいたが、皆、真剣であった。疲れていても、信じられないほど忙しくても、皆、真剣なのだ。どのような状況でも真剣になれるのは、他者の役に立ちたいという感情がとても大きく、医療者は仕事を通じてそれを満たせるからだと思う。だからこそ今後重要なのは、本当に患者さんの役に立てているか省み続けることだ。

そのためには当然、勉強しなくてはならないし、自分が行っている医療行為の妥当性には常に疑問を抱かなくてはならない。医療者としての万能感など一生持つてはいけない。常に謙虚に、常に真摯に（渡部）。

ただ、この旅でしか得られなかったことは必ず「医の原点」の探索に重要だと考える。
ホストファミリーの肥田家の方々に始めとした日系人の温かさや思いやり、森口先生の献身的な姿勢、そして同じ国民同士で助け合うブラジル人の国民性、ブラジルの雄大な自然の中で感じた心の平穏、どれをとってもかけがえのない学びであった。

一生を掛けてこの旅での思い出を消化し、内省しながら、仁術である医療に取り組んでいきたい（和氣）。

2027年版 「日医君卓上カレンダー」を 600名の方にプレゼント



日本医師会では今年も、ご好評いただいている「日医君卓上カレンダー」の2027年版を制作し、抽選で600名の方にプレゼントいたします。

2027年版カレンダーは、「日医君」が季節ごとに全国各地を巡った様子が、かわいらしく描かれたものとなっています。下記の応募方法に従い、奮ってご応募ください（応募受付は11月1日からとなります）。

◆応募方法：

STEP1：右記の二次元コードから日本医師会LINE公式アカウントを友だち登録（登録済みの方は自動的に当アカウントのトーク画面に飛びます）



応募は
こちらから

STEP2：送付先等のご質問に回答

STEP3：応募完了！

※当選者には、後日、当アカウントからご連絡いたします（落選の場合にはご連絡いたしませんので、ご承知置き願います）。また、カレンダーのお届けは本年12月中旬頃を予定しています。

※応募完了後に当アカウントをブロックまたは削除した場合には当選が無効となります。

※応募はお一人様1回に限らせていただきます（複数応募は無効といたします）。

◆**応募期間：**2026年11月1日（日）～30日（月）23時59分まで

◆**問い合わせ先：**日本医師会広報課 ☎03-3946-2121（代）、
✉kouhou@po.med.or.jp

書籍紹介



医療現場の会話は、
なぜ噛み合わない

森井大 著



医師は日々、職場の間
間同士や患者と会話をし
ているが、自身の考えが
相手にうまく伝わってい
ない、あるいは伝えられ
ていないと感じている方
も多いのではないだろう
か。

本書は医師で、日医総
研主席研究員でもある著
者が、なぜそのようなこ
とが起きるのか、その解
決策を行動経済学の視点
から示した解説書である。
その内容は、「part1
行動経済学という考え方
」自己紹介に代えて「
「part2 医療現場の「あ
るある」コミュニケーション
」エラー事例集「
「part3 もっと詳しく
」本書に出てきた用語
解説」「part4 大・ど・
ん・で・ん・返し」の
4部構成となっている。
解説書というとし難しく感
じるかもしれないが、イ
ラストも多く掲載されて
いて読みやすい。

医療は様々な職種が助
け合って行うものであ
り、コミュニケーション

が取れないことは致命的
とも言える。そういった
意味でも本書は一読に値
する書と言える。
定価 2970円（税込）
発行 メディカ出版

医療現場の変容を促す
システム・
コーチング入門
大塚志保
日経ヘルスケア
編 著



本書は、コーチング専
門ファームでエグゼクテ
ィブコーチを務める著者
が、人材開発のヒントと
なるコーチングの考え方
やノウハウをまとめた解
説書である。

「第1章 いま、医療
経営に何が起きているの
か」「第2章 医療経営
でコーチングを活用する
リーダー」「第3章 コ
ーチングの組織導入で経
営にプラスのインパクト
をもたらす」「第4章
新時代に活用できるコー
チング」「第5章 医療
現場の変容を促す人材開
発の具体的なアプローチ
」第6章 医療現場
の変容を持続するための
大事な「アプローチ」の全
6章で構成。あまたある
コーチングのアプローチ

会員提携ホテルに 「ホテルグランドアーク半蔵門」 が加わりました



日本医師会ホームページのメンバーズルームに掲載中の「ONLINE ホテル予約サービス」会員提携ホテルに、帝国ホテルグループ系列の「ホテルグランドアーク半蔵門」が新たに加わりました。

日本医師会ホームページ▶「メンバーズルームにログイン」▶「ホテル予約サービス」からご予約いただけますので、どうぞご利用ください。

の中でも、医療機関で実
践する際に特に大切なポ
イントが絞って紹介され
ている。
コーチングによって部
下の能力を最大限に引き
出し、医療現場を変容さ
せたいと思われる一冊
療経営者にお薦めの一冊
となっている。
定価 3300円（税込）
発行 日経BP

全国国民年金基金

日本医師・従業員支部案内

「社会保険料控除証明書」を発送しました

本年中に基金掛金を納
付された加入員には、「社
会保険料控除証明書」が
届きますので、ご確認く
ださい。

なお、加入後の初回掛
金引き落とし日が12月の
方については、後日発送
となりますので、しばら
くお待ちください。

社会保険料控除証明書
には、基金掛金の納付状
況、加入の年金の型、口

将来への備えとして、
ご家族のご加入について
もご検討されてはいかが
でしょうか。

お問い合わせは基金事
務局（☎0120-070
0650）まで。WEB
上でも、資料請求や加入
申し込みのお手続きがで
きます。

